

# モルモン書のしゅつげん

だい1しょう



ジョセフ・スミスが14才の時、いろいろな教会が、自分の教会こそ正しい教会だと言いはっていました。そのためジョセフは、どの教会に入ったらよいのか、分かりませんでした。(ジョセフ・スミス—れきし1：5—10)



ある日、ジョセフは、聖書のヤコブの手紙だい1しょう5せつを  
読んでいました。「あなたがたのうち、ちえにふそくしているものがあれば、神にねがいなさい。」どの教会が正しいのか知りた  
と思ったジョセフは、神にたずねようとけっしんしました。(ジョセフ・スミス—れきし1：11—13)



ジョセフは、ある春の日、いのろうと家の近くにある森の中へ入  
って行きました。(ジョセフ・スミス—れきし1：14)



ジョセフがひざまずいて、おいのりをはじめると、サタンがやめ  
させようとしてきました。ジョセフはけんめいに、天父にたすけをも  
てました。(ジョセフ・スミス—れきし1：15—16)



ジョセフは、光のはしらの中に天父とイエス・キリストを見まし  
た。天父はイエスをさして、「これはわたしのあいする子である。  
かれに聞きなさい」とおっしゃいました。(ジョセフ・スミス—れ  
きし1：16—17)



ジョセフは、どの教会に入ればよいのかを、たずねました。すると、イエスはどの教会にも入ってはならない、「なぜなら、すべてまちがっているからである」とお答えになりました。(ジョセフ・スミスーれきし1：18—19)



ジョセフが、自分の見聞きしたことを人びとに話すと、いろいろな教会のしどうしゃたちは、ジョセフをつめたくあしらい、くらしめました。(ジョセフ・スミスーれきし1：21—22)



3年がすぎたある夜、ジョセフは自分のつみのゆるしをもとめていのり、何をすべきかたずねました。(ジョセフ・スミスーれきし1：29)



すると、モロナイという名のてんしがおとずれて、きんばんに書かれている、きろくについてつけました。ジョセフはそのきろくをえいごにほんやくすることになっていると言いました。(ジョセフ・スミスーれきし1：33—35)



モロナイが天にもどってから、ジョセフは、つげられたことについて思いめぐらしました。モロナイはその夜、さらに2回あらわれ、つぎの朝もおとずれました。(ジョセフ・スミスーれきし1：44—47)



つぎの日、ジョセフはじげんで見たクモラのおかのちょうじょうへ行きました。そこには大きな岩があり、ジョセフは、その岩をぼうでもち上げました。(ジョセフ・スミスーれきし1：50—52)



岩の下には石でできたはこがありました。ジョセフはこのはこの中を見ると、きんぱんがありました。(ジョセフ・スミス—れきし 1 : 51—52)



その時モロナイがあらわれ、4年間毎年同じ日にここへもどって来るいがい、きんぱんを手にしてはいけなかつげました。ジョセフが1年ごとにそこへ行くたびに、モロナイはジョセフにしじをあたえました。(ジョセフ・スミス—れきし 1 : 53—54)



4年たつてついにジョセフはきんぱんを手にするのをゆるされしました。そこで、ウリムとトンミムによって、いちぶをほんやくしました。(ジョセフ・スミス—れきし 1 : 59, 62)



後になって、ひっきしゃとよばれる人が、ジョセフをたすけました。ジョセフがきんぱんに書かれていますことをいひでのべ、それをひっきしゃが書きとりました。(ジョセフ・スミス—れきし 1 : 67)



ジョセフはほんやくしたものをいんさつじよに持って行きました。それが本になったのです。(『教会れきし』〔えいぶん〕, 1 : 71)



その本はモルモン書とよばれています。昔、アメリカたいりくにすんでいた人びとについて書かれています。神のおん子イエス・キリストについてのもう一つのあかしです。(モルモン書じよぶん)